



日本学校心理士会 2015年度大会のご案内

—学校心理士のアイデンティティを問う—

期日：2015年8月8日（土）・9日（日）

会場：道民活動センター「かでの2・7」（〒001-0000）北海道札幌市中央区北2条西7丁目

主催：日本学校心理士会

主幹：北海道学校心理士会

後援：（一部申請中）：（社）学校心理士認定運営機構，文部科学省，北海道教育委員会，札幌市教育委員会，全国連合小学校長会，全日本中学校長会，全国高等学校長協会，全国特別支援学校長会，全国国公立幼稚園長会，（公）日本教育会，（社）日本教育心理学会，（社）日本特殊教育学会，日本発達障害学会，（社）日本発達心理学会，（社）日本LD学会，日本学校心理学会，日本応用教育心理学会，日本生徒指導学会，日本学校カウンセリング学会，日本コミュニケーション障害学会，日本学校メンタルヘルス学会

ご挨拶

「日本学校心理士会 2015年度大会は，北海道札幌市にあります道民活動センター「かでの2・7」で，8月8日（土），9日（日）の2日間にわたって開催します。

本大会のテーマは，「学校心理士のアイデンティティを問う」としました。「心理職」を国家資格にする法案が国会で論議される準備が進められている状況にあります。昨年6月には，法案が国会に提出されましたが，この大会案内の発行の時期においてもまだ予断の許さない状況にあります。この資格が制度化されてもされなくても，「学校心理士」が学校における対児童生徒援助サービスの専門家であることには変わりはありません。本大会は，参加された皆様が子どもたち一人一人の充実した学校生活の実現を支援する「学校心理士」の専門性，独自性をしっかり把握し，日々の教育活動や支援活動に活かす実践的，実際の示唆を得ることができるよう，内容を構成しました。

1日目の予定にある基調講演は，石隈利紀会長から「学校心理士のアイデンティティとは」と，文部科学省の方からは「学校心理士に期待すること」についての講演を予定しております。

大会シンポジウムでは，「一次的，二次的，三次的援助の具体化とその方法」をテーマに，具体的に提言していただこうと考えています。同時時間帯には，年報編集委員会シンポジウムと自主シンポジウム，また，会場，時間の設定上，タイトなスケジュールですが，ポスターセッションと同時並行で，自主シンポジウム，「学校心理士資格」連絡協議会を開催させていただきます。

2日目の予定にある各研修会は，午前中に6領域の研修会とSV研修会，午後に同じく6領域の研修会とSV研修会の14研修会を開催いたします。

8月の北海道は，日頃の多忙な先生方の避暑地として憩いのひとときを感じてもらえる季節です。学校心理士としての専門性を高める機会として是非多くの方のご参加を期待しております。

日本学校心理士会 2015年度大会準備委員長

山谷 敬三郎（北翔大学 教授）

1. プログラム

※現時点での予定ですので、変更する場合があります。

第1日目：8月8日（土）	
9:00～	受付
9:30～10:00	開会行事（開会挨拶，名誉学校心理士推戴式）
10:15～11:15	基調講演①（Aポイント：①，②を合わせて1ポイント） ＜演題＞「学校心理士のアイデンティティとは」 ＜講師＞石隈 利紀（日本学校心理士会 会長・筑波大学 副学長）
11:15～12:15	基調講演②（Aポイント：①，②を合わせて1ポイント） ＜演題＞「学校心理士に期待すること」 ＜講師＞文部科学省初等中等教育局 担当者
12:15～13:00	休憩（昼食）
13:00～14:00	日本学校心理士会総会（是非ご参加ください）
14:10～16:10	・ポスターセッション（筆頭発表者 F：3ポイント，連名発表者 H：1ポイント） ・自主シンポジウム①（企画者，出演者 G：3ポイント） ・「学校心理士資格」連絡協議会（関係者のみ）
16:20～18:20	・大会シンポジウム（A：1ポイント） ＜テーマ＞「一次的，二次的，三次的援助の具体化とその方法」 ＜企画＞山谷敬三郎（北翔大学 教授） ＜司会＞岡田 守弘（日本学校心理士会 副会長・東京医療学院大学） ＜話題提供者＞ 樽木 靖夫（千葉大学 教授） 飯田 順子（筑波大学 准教授） 西山 久子（福岡教育大学 教授） ＜指定討論者＞ 大野 精一（日本教育大学院大学 教授） ・日本学校心理士会年報編集委員会シンポジウム（A：1ポイント） ・自主シンポジウム②（企画者，出演者 G：3ポイント）
19:00～20:40	情報交換会（懇親会）札幌ビール園（会場からバスで向かいます。帰りはフリーです）

第2日目：8月9日（日）		
9:30～	受付	
10:00～12:00	研A 修1 ・ポ 午イ 前 のト 部	①いじめ防止対策推進法の実効性を高める学校心理士の援助サービス 八並 光俊（東京理科大学） ②教員へのコンサルテーション—特別支援教育・個別学習の事例で考える— 上村恵津子（信州大学） ③学級経営に活かす，社会性と情動の学習—SEL-8 Sプログラムでの取組— 小泉 令三（福岡教育大学） ④学校心理士としての授業改善や学習相談のあり方について 松尾 直博（東京学芸大学） ⑤学校危機対応の実際 瀧野 揚三（大阪教育大学） ⑥支援につながる多角的アセスメント—KABC-IIの活用をとおして— 小林 玄（立教女学院短期大学）
	S V研修①【Ⅲその他】 （注1） 学校教育相談(School Counseling Services by Teachers in Japan)とは何か— 学校心理士あるいは学校心理学との関連で— 大野 精一（日本教育大学大学院）	
12:00～13:00	休憩（昼食）	
13:00～15:00	研A 修1 ・ポ 午イ 後 のト 部	⑦学校教育に活かすアドラー心理学 会沢 信彦（文教大学） ⑧学校心理士が取り組む学習支援 岡 直樹（広島大学） ⑨学校におけるチーム支援について—学校組織の観点から— 山口 豊一（跡見学園女子大学） ⑩通常学級の中の発達障害—「スペクトラム」の理解と支援— 芳川 玲子（東海大学） ⑪ストレスマネジメント教育—積極的生徒指導の心理教育的アプローチとして— 藤原 忠雄（兵庫教育大学） ⑫Q-Uによる学級集団アセスメントとコンサルテーション 粕谷 貴志（奈良教育大学）
	S V研修②【Ⅱコンサルテーションおよびスーパービジョン】 （注1） コンサルテーション・スーパービジョンの方法とその実践 橋本 秀美（大阪樟蔭女子大学）	

(注1) **S V研修は、学校心理士スーパーバイザーのみ参加可能です。**資格更新に必須ですが、ポイントは付与されません。参加を希望される方は、本大会への参加申し込みと共に、大会ホームページで研修参加申し込みをしてください。

(注2) 上記の講師の所属は、一部を除き平成27年2月28日時点のものです。

2. 資格更新ポイントについて

- ・大会への参加によって(1日でも2日間でも), I (1ポイント)が付与されます。但し, F, G, Hポイントを取得した場合は, Iポイントは認められません。
- ・F, G, Hのポイントは, どれか1種類のポイントのみとなります。
- ・「基調講演」のポイントは, ①と②を合わせて1ポイントとなります。
- ・「ポスター発表」は筆頭発表者がF (3ポイント), 連名発表者がH (1ポイント)です。ただし, 連名発表者として複数の発表に参加してもHは1ポイントのみです。なお, 「ポスター発表」に視聴者として参加していただくことへのポイントの付与はありません。
- ・「大会シンポジウム」「年報編集委員会シンポジウム」への参加は, A (1ポイント)です。
- ・研修会①～⑫への参加はそれぞれA (1ポイント)です。
- ・学校心理士スーパーバイザーの方へ
資格更新には, 「Aを1ポイント以上を含む合計 10ポイント」に加え, 「スーパーバイザー (SV) 研修」への参加が必要です。SV研修は, I 「倫理と法」, II 「コンサルテーションあるいはスーパービジョンの方法」, III 「その他」の領域について, 年度ごとに2領域を開催します。I, II及びIIIにつき, 最低各1コマの受講が必須となります。今回は, II 「コンサルテーションおよびスーパービジョン」を午後に, III 「その他」を午前で開催します。

3. 事前参加申し込みについて

本年度は, 非会員の方も申込が可能です。大会ホームページ (<http://www.heibun.co.jp/gakkoushinrishi2015/>) にアクセスし, 『事前参加申込』から, 2015年6月6日(土)24:00までに必要事項を入力してください。入力完了後, 登録されたE-mailアドレスに確認メールが配信されます。ご登録いただいた後, 諸費用を払い込みください。入金が確認された後, 「事前参加申込確認書」をメールにて送付いたします。

なお, インターネットでの申し込みが難しい方は, Fax用の参加申込書をお送りしますので, 大会事務局(14頁掲載)までご連絡ください。なお, Fax用紙は大会ホームページからもダウンロードもできます。

(1) 「大会シンポジウム」, 「年報編集委員会シンポジウム」の申し込み

1日目の「大会シンポジウム」「年報編集委員会シンポジウム」に参加を希望する方は, 事前参加申し込み時に, 希望のシンポジウムをお選びください。

(2) ポスター発表の申込み及び論文投稿の手続き

ポスター発表を希望される方は, 2015年6月6日(土)24:00までに大会ホームページ上の『論文投稿』により, 発表内容の登録と, 原稿のアップロードを行ってください。

ポスター発表用の論文のフォーマット(Microsoft Word版)は, 大会ホームページからダウンロードできますのでご活用ください。

(3) 自主シンポジウムの申し込み及び原稿送付の手続き

自主シンポジウムを企画される方は, 2015年6月6日(土)24:00までに大会ホームページ上の『論文投稿』により, 内容及び出演者の登録と企画要旨の投稿を行って下さい。追って採択の可否と時間帯をお知らせいたします。採択の場合, メール添付にて原稿の提出を依頼いたします。自主シンポジウムの論文のフォーマット(Microsoft Word版)は, 大会ホームページからダウンロードできますのでご活用ください。

(4) 研修会の申し込み

2日目の研修会の申し込みは、「午前の部」と「午後の部」で合計14コマ（SV研修2コマ含む）を設定しています。申し込みの際は、大会ホームページ上の『事前参加登録』により、希望する研修会をお選びください。参加者数により開催する会議場を設定します。定員数を超える場合は先着順とさせていただきます。第2希望、第3希望になることもありますので、予めご承知おきください。スーパーバイザーの方も会場設定の関係から事前に申し込みをお願いいたします。

(5) 注意事項

- ①「ポスター発表の筆頭発表者」と「自主シンポジウム企画者または出演者」は兼ねられません。
- ②「ポスター発表の筆頭発表者」と「他の発表の連名発表者」を兼ねることは可能です。
- ③「ポスター発表の連名発表者」と「自主シンポジウム企画者または出演者」を兼ねることは可能です。
- ④インターネットでの原稿投稿ができない場合は、2015年5月29日（金）までに大会事務局まで連絡してください。送付方法は原稿作成要領をご確認ください。

4. 諸費用振り込み方法

2015年6月20日（土）までに下記の口座に諸費用を払い込んでください。（振込伝票は同封されておりません）入金確認後、「事前参加申込確認書」をメールにて送付いたしますので、出力していただき、大会当日の受付にて提示してください。引き換えに名札、領収書、参加証（I 1ポイント）・カードホルダーをお渡しします。

※注意事項：振込の控えは、大会当日まで必ず大切に保管してください。振込の証拠として提示していただくことがあります。なお、払い込まれた諸費用は、原則として返却することができませんので、予めご了承ください。

【振込先】郵便局 【店名】九〇八（読み キュウゼロハチ）
【店番】908 【預金項目】普通預金 【口座番号】0142299
「北海道学校心理士会」（ホッカイドウガッコウシンリシカイ）

○諸費用一覧

・日本学校心理士会会員

種 別	金 額	備 考
参加費	事前 8,000 円 当日 9,000 円	発表論文集1冊分を含みます。
自主シンポジウム企画費	5,000 円	企画者のみが納入ください。
情報交換会（懇親会）	事前 4,000 円 当日 4,500 円	会場から貸切バスで札幌ビール園まで行きます。（飲み放題・食べ放題です）

※ポスター発表者（筆頭・連名）は、参加費以外に費用はありません。連名発表者は不参加の場合でも、参加費の納入が必要です。

・ 非会員

種 別	金 額	備 考
参加費	事前 9,000 円 当日 10,000 円	発表論文集 1 冊分を含みます
ポスター発表 連名発表費 (大会不参加のみ)	2,000 円	大会不参加の場合のみ必要です。 発表論文集は含みません
情報交換会 (懇親会)	事前 4,000 円 当日 4,500 円	会場から貸切バスで札幌ビール園まで 行きます。(飲み放題・食べ放題です)

○各種手続き期限

①ポスター発表申込・論文投稿	6月6日(土) 24:00 (大会HPからアップロード) 郵送の場合も6月6日(土) 必着
②大会予約参加申込	6月6日(土) 24:00 (大会HPから)
③諸費用の振込期限	6月20日(土) まで

5. ポスター発表要領

(※発表者への案内です)

(1) 発表の方法

発表内容をポスター形式で掲示し、それをもとに発表者と視聴者の間で討論していただきます。

(2) 発表の要件

「発表論文集への論文掲載」「ポスターの展示発表」「討論への参加」という3条件をすべて満たすことによって公式発表として認められます。

(3) 発表資格

筆頭発表者は、2015年5月30日(土)の時点で、日本学校心理士会の正会員でなければなりません。(2014年度学校心理士・学校心理士(補)の資格試験に合格し、会費を払った方も含みます)。また、筆頭発表者は、発表申込、予約参加費、発表論文集原稿に関わるすべての手続きを、所定の期日までに行っていなければなりません。連名発表者も、大会参加申込の手続きでその旨を示し、大会参加費を納入しなければなりません。

なお、非会員の方が連名発表者になる場合は、ご本人が参加申込をしていただき、不参加の場合は連名発表費(2,000円)を納入していただくこととなります。筆頭発表者は責任をもって非会員の申込状況や費用の負担について確認してください。

(4) 論文原稿作成要領

ポスター発表用の論文のフォーマット(Microsoft Word版)は、大会ホームページ上からダウンロードできます。各自で用意する際は、レイアウト図を参照してください。パソコンのワープロソフトなどでモノクロ原稿を作成してください。原則として、研究の目的、方法、結果、考察などの項目に分けて記述してください。なお、事例発表には、個人情報保護・プライバシーへの配慮をお願いいたします。

発表1件にあたり、発表論文集の見開き2ページを充てます。作成していただく原稿は、A4判、横書き、2段組とし、1ページ目に題目、発表者氏名、所属機関名を記載し、2ページ目は論文のみとしてください（レイアウト図を参照）。なお、論文集の大きさはB5判になります。

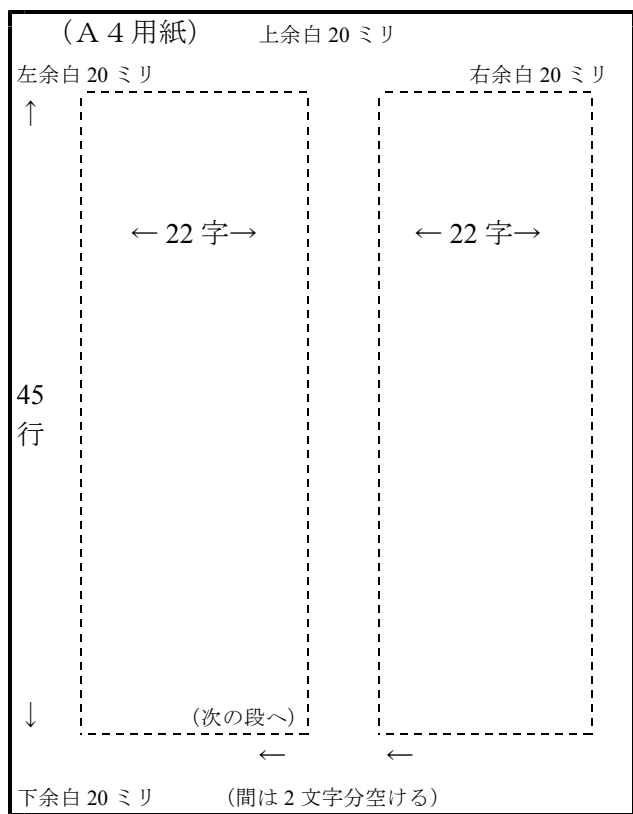
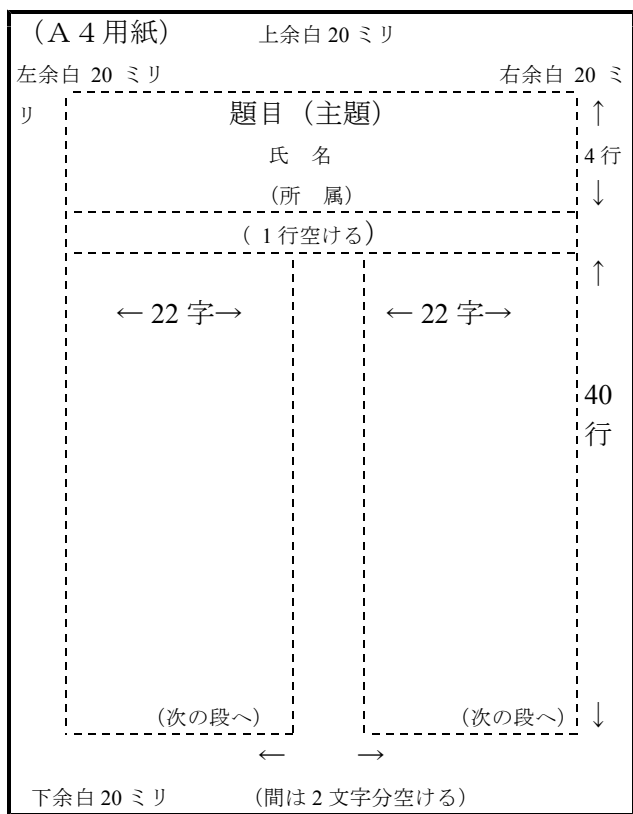
本文（機関名）や写真などから、個人が特定されてしまうことのないようご注意ください。

①題目・氏名・所属・本文の記入方法（レイアウト図参照）

- a) 「題目」は4倍角（普通の文字〔全角〕の2×2字分）程度の大きさに上から第1行目と第2行目に記述してください。
- b) 「氏名」は、第3行目に記述する。また、連名の場合には筆頭発表者の氏名の前に○印をつけてください。
- c) 「所属」は、第4行目に氏名の下に括弧（ ）でくくって記述してください。
- d) 「本文」は、「所属」の行から1行空けた第6行目から書き始めてください。
- e) 会員以外の連名発表者については氏名の後ろに#印をつけてください。

②図と表の記入及び写真の掲載について

印刷して仕上がったときの縦横の縮小率は、原稿を1とすると約0.9倍となります。このことに考慮して作成してください。図や表の記載量についての制限はありませんが、すべてが印字の枠内に収まるようにしてください。写真は図として扱います。原稿をアップロードすることを考慮して、容量が大きくなるようにしてください（原稿全体で3 MB 未満）。郵送で送る場合は、原稿に直接挿入して仕上がり原稿として作成してください。



レイアウト図 (A4判 横書き)

【注】上図に示した行数および1行の文字数は、おおよその目安とってください。ただし、指定の行数は±3行、指定の文字数も±3字の範囲でお書きください。

(5) 論文原稿送付について

筆頭発表者は、大会ホームページの『論文投稿』より、必要事項を入力の上、原稿をアップロードしてください。郵送の場合は、以下の(a)～(c)の一式を同封の上、大会事務局宛にお送り下さい。お送りいただいた発表論文原稿はお返しいたしません。予めご了承下さい。

- (a) 発表論文集原稿 (A4判) 1通
- (b) 発表論文集原稿のコピー (A4判) 2通 ※プログラム編成用に使用します。
- (c) ポスター発表編成票 (A4判) 1通 ※ポスター発表編成票フォーマットは、大会ホームページからもダウンロードできます

(6) ポスター掲示について

大会当日に使用する掲示用のポスターは、各自ご用意の上、当日ご持参ください。パネルの大きさは概ね180cm × 90cm となります。また、1行目には発表題目、2行目に発表者氏名を印字した縦20cm × 横60cm程度の見出しをご用意ください。

なお、責任在籍時間は、16:20～17:20もしくは17:20～18:20で、準備委員会より指定させていただきます。

6. 自主シンポジウム要領 (※企画者への案内です)

(1) 企画者の資格

企画者は、2015年5月30日(土)の時点で、日本学校心理士会の正会員でなければなりません。(2014年度学校心理士・学校心理士(補)の資格試験に合格し、会費を支払った方も含みます)。また、企画は、発表申込、予約参加費、発表論文集原稿に関わる全ての手続きを、所定の期日までに行っていないとできません。

なお、企画者以外の出演者は、会員以外でも可とします。ただし、大会参加費をお支払いいただきます。

(2) 論文原稿作成要領

発表1件にあたり、発表論文集の見開き2ページを充てます。作成していただく原稿は、A4判、横書き、2段組とし、1ページ目に題目、出演者の役割・氏名・所属機関名を記載し、2ページ目は論文のみとしてください。なお、論文集の大きさはB5版になります。

題目・氏名・所属・本文の記入方法(レイアウト図参照)は以下の通りです。

- a) 「題目」は4倍角(普通の文字[全角]の2×2字分)程度の大きさで上から第1行目と第2行目に記述してください。
 - b) 出演者の「役割(司会者、話題提供者、指定討論者など)」「氏名」「所属(氏名の後ろに括弧でくる)」は、第3行目から、一人につき1行を用いて記述する。
 - c) 「本文」は、「所属」の行から1行空けた行から書き始めてください。
 - d) 会員以外の出演者については氏名の後ろに#印をつけてください。
- 上記a)～d)以外のことはポスター発表に準じます。

(3) その他

準備委員会では、会場のみを準備いたします。運営には一切関知致しません。会場にはパソコン、プロジェクター、スクリーンが設置されています。パソコンの持ち込みは可能です。

7. 会場へのアクセス

会場は、道民活動センター「かでの2・7」（札幌市中央区北2条西7丁目）です。以下の地図を参考にしてください



札幌駅南口	徒歩 13分
地下鉄	さっぽろ駅（10番出口）より 徒歩 9分 大通駅（2番出口）より 徒歩 11分 西11丁目駅（4番出口）より 徒歩 11分
JRバス	北1条西7丁目（停留所）より 徒歩 4分
中央バス	北1条西7丁目（停留所）より 徒歩 4分

※昼食のご案内：会場及び周辺には、レストランやホテル内の食堂等がありますが、混雑が予想されます。そこで、昼食（弁当）の予約販売を行います。予約参加申込時に申込みください。

8月9日（日）研修会 概要

【午前の部】

① いじめ防止対策推進法の実効性を高める学校心理士の援助サービス

八並 光俊（東京理科大学）

本研修では、平成 25 年に公布された「いじめ防止対策推進法」に基づく生徒指導体制における学校心理士の援助サービスについて学習します。学校現場での同法の理解や実施は、未だに不十分な状況です。学校心理士を中核とする生徒指導体制づくりでは、同法の理解と一次的教育援助体制の構築が不可欠です。学校心理士の援助サービスとしては、「個と学級・ホームルーム集団のアセスメント」と「計画的・系統的なガイダンスカリキュラム」があげられます。また、実務的な面では、業務記録のデータベース化が重要となります。

② 教員へのコンサルテーション ―特別支援教育・個別学習の事例で考える―

上村 恵津子（信州大学）

学校心理士の重要な役割の一つとして、コンサルテーションがあります。コンサルテーションは、「異なった専門性や役割をもつ者同士が子どもの問題状況について検討し今後の援助のあり方について話し合うプロセス（作戦会議）」（石隈，1999）と定義されています。そしてその特徴は、互いに異なる専門性を持つコンサルタントとコンサルティの関係が対等であるということです。しかし、実際のコンサルテーションでは、両者の対等な関係を維持していくことが難しいと感じる場面が多々あります。研修会では、特別支援学校における個別学習の事例をもとに、コンサルテーションのロールプレイを行いながら、コンサルティの専門性を尊重しつつ展開するコンサルテーションのコツについて考えます。

③ 学級経営に活かす、社会性と情動の学習 ―SEL-8S プログラムでの取組―

小泉 令三（福岡教育大学）

すべての児童生徒を対象とした一次的教育援助サービスとして、多くの種類の心理教育プログラムが実践されつつあり、それらは総称として、「社会性と情動の学習」（ソーシャル・エモーショナル・ラーニング）と呼ばれることがあります。その中で、今回は学校で 8 つの社会的能力の育成を目指す SEL-8S（セル・ハチエス）プログラムについて、特に学級経営の視点から、その考え方や具体的な学習内容例、また実際の導入方法とこれまで明らかになってきた教育効果などを紹介します。学級担任教師の指導力向上だけでなく、学年や学校全体、さらには小中学校 9 年間で一貫して取り組むことによる中学校ブロック全体の教育力向上によって、児童生徒の学校適応の促進に資することができる方法の一つです。この機会に、多くの学校心理士の方々に理解していただけることを期待しています。

④ 学校心理士としての授業改善や学習相談のあり方について

松尾 直博（東京学芸大学）

学校教育において授業や学習は、言うまでも無く主要な営みです。子どもたちにとって、授業や学習を通じて成長できることは、何よりの喜びであり、充実感を味わえることです。反対に、授業や学習で躓き、困難を抱えることは、学校での生活そのものを苦痛なものにしてしまう可能性があります。学校教育と心理学の両方の専門家である学校心理士は、よりよい授業や学習について理解し、発展させ、必要に応じて改善するための

知識を持たなければなりません。本研修では、学校教育における授業や学習を全ての子どもたちにとってよりよいものにするために、どのような視点や知識を持てば良いか考えていきたいと思えます。内容としては、学校心理学における3段階の心理教育的援助サービスの考え方を基に、授業改善や学習相談のあり方について触れていきます。また、学びのユニバーサルデザインや、これからの新しい教育における授業改善や学習相談についても考えていきます。

⑤ 学校危機対応の実際

瀧野 揚三 (大阪教育大学)

学校の危機管理について、教職員が理解をすすめて、危機事態にチームで対応できるように準備することが求められています。まず、学校危機管理について、事件・事故や災害を回避するために学校が取組む「リスク・マネジメント」と、事件・事故や災害が発生した直後に、被害を最小化し、早期回復のための「クライシス・マネジメント」に分けて解説します。具体的な事例について、グループワーク等の演習を通じて、積極的な準備の必要性を理解していただきます。さらに、学校危機対応における予防の考え方を説明し、心のケアを含めた学校における中長期にわたる対応について理解を深めていただきます。学校の危機管理と危機対応について、学校心理士として教職員をリードしていただけるような研修の機会にさせていただければ幸いです。

⑥ 支援につながる多角的アセスメント —KABC-IIの活用をとおして—

小林 玄 (立教女学院短期大学)

子どもへの支援は、まずその子どもを理解することから始まります。子どもの困難さに気づくことは比較的容易ですが、肝心なのは、その困難さの背景を理解し、適切な支援の方針をたてることなのです。近年、学校教育の場にもアセスメントという言葉が定着してきています。子どもが抱える困難さをアセスメントする時に大切なことは、複数の視点をもって実態を把握するということです。ここでは、認知尺度と習得尺度の2つの観点をもち、子どもの認知能力と学力間のディスクレパンシーや特性を把握することのできる日本版KABC-IIを紹介し、検査結果をどのように支援の方針につなげていくかを解説します。また、検査結果の数値からの量的解釈だけでなく、検査中の行動観察や日頃の様子などの質的情報も含めた多角的なアセスメントの在り方についても言及します。

○ SV研修①【Ⅲその他】

学校教育相談 (School Counseling Services by Teachers in Japan) とは何か

—学校心理士あるいは学校心理学との関連で—

大野 精一 (日本教育大学院大学)

学校教育相談は、教師(教諭・養護教諭等)が中核となって学校で行われている教育活動です。1965(昭和40)年5月に刊行された『生徒指導の手びき(第一集)』(文部省)で第七章「教育相談」と章立てされ、続く『生徒指導の手引(改訂版)』(文部省・1981昭和56年10月刊)、さらに2010(平成22)年11月に出た『生徒指導提要』(文部科学省)でも同様な扱いです。今日まで半世紀の歴史を持っています。不思議なことに「生徒指導」と「教育相談」あるいは「(スクール)カウンセリング」について共通した理解がなく、大学等で行われている教職科目や免許更新講座等での「教育相談」は統一した内容や枠組みがないと言っている。このSV研修では、学校における教育相談実践を「学校教育相談 School Counseling Services by Teachers in Japan」という視角から学校心理士あるいは学校心理学との関連で歴史的・理論的に整理して、今後の展望を示したいと思っています。

【午後の部】

⑦ 学校教育に活かすアドラー心理学

会沢 信彦（文教大学）

岸見一郎・古賀史健共著『嫌われる勇気』（ダイヤモンド社）という本をきっかけに、昨年からアドラー心理学がちょっとしたブームになっているようです。私は、アドラー心理学は、学校心理学と並んで、「学校教育に活かせる心理学」の最有力候補だと考えています。

この講義では、①子どもの不適切な行動の4つの目標、②勇気づけ、③共同体感覚、という3つの概念を中心に、アドラー心理学の基本的な考え方をご紹介します。なお、私は、「アドラー心理学の全体像をお伝えする」というよりも、「学校教育にアドラー心理学を活かす」ことを重視したいと思います。

⑧ 学校心理士が取り組む学習支援

岡 直樹（広島大学）

学習支援は、心理・社会面の問題に対する援助とともに、学校心理士が果たすべき役割の中核となるものです。学校心理士が取り組むこの学習支援の特徴の一つは、心理学の理論や知見に基づき支援を行うところにあります。そこで、本研修ではまず学習支援の基礎となる心理学的な知見について解説します。そして、そのような知見をふまえた学習支援の方法について、学習観の問題の解決や学習方法の改善を念頭におきながら、認知カウンセリングの手法を中心に紹介します。その際、個別の学習支援ばかりでなく、グループに対する学習支援、あるいは学級での学習支援についても取り上げます。また、自分の専門教科以外の教科についての学習支援のあり方、考え方についても言及します。

⑨ 学校におけるチーム支援について ―学校組織の観点から―

山口 豊一（跡見学園女子大学）

学校の援助サービスのシステムは、「個別の援助チーム」、「コーディネーション委員会」、「マネジメント委員会」の3つのレベルで整理されています。「個別の援助チーム」は、特定の子どものための担任、保護者、養護教諭、SC などによるチームの形態をとった援助であり、個別の教育支援計画を作成し援助します。「コーディネーション委員会」は、学校・学年の援助サービスのコーディネーションを行い、教育相談部会、生徒指導部会、校内（支援）委員会がこれに当たります。「マネジメント委員会」は、企画・運営委員会に当たり、援助サービスのマネジメントをします。これらのシステムが、チーム支援体制、チーム支援にどのように機能するのか、一緒に考えていきます。

⑩ 通常学級の中の発達障害 ―「スペクトラム」の理解と支援―

芳川 玲子（東海大学）

最近、「子供たちの行動をどのようにとらえたらいいのか、わからなくて困っている」という教師が多い。また、「特別支援に関する新しい概念がどんどん出てきて、発達障害についての知識は増えたものの、通常学級の中でそれをどのように役立てたらいいのかわからない」との声も聞きます。確かに、知識の側面から理解するだけでは、学校現場での「困り」は解決されず、児童生徒への対応について、現在でも多くの課題が残されています。

本研修は、①通常学級において理解されにくいといわれている「自閉症スペクトラム」傾向の児童生徒について概説したうえ、②問題行動を含む諸行動に関するアセスメント及び理解の仕方を紹介し、さらに③具体的

な対応の立て方について考えることを目的とします。学校心理士は学校現場においてコーディネーター的な役割を果たす可能性が高いことから、今回は特にコーディネーター的な視点から研修をすすめます。

⑪ ストレスマネジメント教育 ―積極的生徒指導の心理教育的アプローチとして―

藤原 忠雄（兵庫教育大学）

消極的生徒指導（問題行動に対応する後追い指導）から脱却し、積極的生徒指導（児童生徒一人一人の学校生活を有意義かつ充実したものにする指導）の充実が求められています。そうした積極的生徒指導の心理教育的アプローチの一つとして、ストレスマネジメント教育があります。

ストレスマネジメントとは、ストレスと付き合い上手になることです。現代社会はストレス社会と言われて久しく、この社会でより良く生きるためには、全ての人に必要不可欠なスキルです。そうしたスキルを習得し日常生活で活用できるように支援するのがストレスマネジメント教育です。本講義では、ストレスと付き合うために必要な知識を簡単に整理するとともに、様々な対処方略の中からリラクゼーションを取り上げ、リラクセス上手になることの意義と必要性を体験的に理解します。

⑫ Q-Uによる学級集団アセスメントとコンサルテーション

粕谷 貴志（奈良教育大学）

いじめ、不登校、学級崩壊など、学校現場がかかえる教育課題は多様化、複雑化してきている現状があります。これらの問題は、近年の児童生徒の多様な実態を背景としているため、適切な対応策を見出すことが困難になっています。問題を適切に理解することができれば、解決の糸口を見出すことができることも多いのですが、その理解自体がむずかしく、また、その理解についての教師間の共通認識を形成することも困難なことが少なくありません。

本講座では、「楽しい学校生活をおくるためのアンケート Q-U」（図書文化）を用いて、教職員の協働による児童生徒理解及び、学級集団アセスメントをおこなう方法について解説します。また、得られたアセスメント結果を教師間の共通認識の形成と具体的な対応策につなげていくコンサルテーションの視点についても触れていきたいと思えます。

○SV研修②【Ⅱコンサルテーションおよびスーパービジョン】

コンサルテーション・スーパービジョンの方法とその実践

橋本 秀美（大阪樟蔭女子大学）

子ども達をとりまく発達上の課題や心理的不適応、それらに伴う問題行動などの多様化に伴い、コンサルテーションや学校への危機介入など、学校心理士の活動はますます重要なものとなっています。さらに、学校心理士の養成や実力向上・資質の向上のために、スーパービジョンは欠かせないものです。ここで、スーパーバイザーとスーパーバイジーの関係は信頼関係に結びついた関係でなければなりません。また、スーパービジョンは指示よりも、共に協働作業をするともいえます。このように、スーパービジョンの実際は、実践を通して行われる具体的、直接的、個別的訓練をさし、評価的な介入が行われるのが一般的です。

本研修講座では、そもそもスーパービジョンとは何か？という原点に立ちかえり、その実践から応用まで、事例などを通して深く掘り下げ、参加の皆様と、ともに振り返り、学ぶ機会となればと考えています。

【問い合わせ・連絡先】

日本学校心理士会 2015 年度大会 大会事務局

(株) 平文社内 日本学校心理士会 2015 年度大会係 担当：西田鉄生・伊藤正憲

〒170-0005 東京都豊島区南大塚 2-35-7

TEL：03-3944-0301 FAX03-5395-6427 (受付時間：月～金 9：30～17：00)

E-mail：gakkoushinrishi2015@heibun.co.jp

大会ホームページ <http://heibun.co.jp/gakkoushinrishi2015/>

※学校心理士資格更新やポイントについては、一般社団法人学校心理士認定運営機構へお問い合わせください。

TEL：03-3818-1554 (受付時間：月～金曜日の 10：30～17：00)

E-Mail：office@gakkoushinrishi.jp

学校心理士認定運営機構ホームページ <http://www.gakkoushinrishi.jp/>